E-1:研究力分析とその活用

開催日時・会場　9月14日（火曜日） 15:50－17:20 中会議室201（2階）

研究環境の変革を仕掛ける

COVID-19 感染拡大の影響によって研究活動が停滞するなか、在宅・テレワークのまま研究を遠隔化、自動化、研究現場を効率化する動きが始まっています。すべてがリアルからオンライン・デジタルに置き換わるわけではないとしても、研究環境（施設・空間）の再設計と、リアルな現場の価値を再考する時機が来ているといえるでしょう。また非実験系でも、学会等の参加、異分野連携や国際連携等のお見合いなど、バーチャル空間を活用した研究コミュニケーションのスマートな事例が出始めました。本セッションでは、実験系/非実験系両方の研究環境の変革を遂げていくために、URA が仕掛けていくべき方向性を皆さんで議論したいと思います。

オーガナイザー

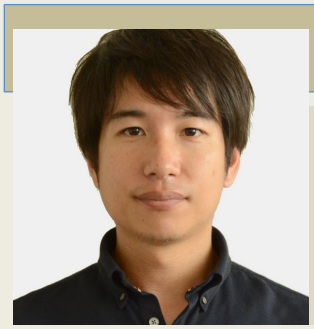
丸山 浩平：早稲田大学・研究戦略センター・教授

JUKI（株）にて産業用機械のR&D、技術戦略企画、新規事業開発等を担当した後、早稲田大学でバイオセンシング研究に従事。2009年から同大学研究戦略センター（URA組織）の立上げに参画し、その後も複数の大学でURA活動に従事。JST・CRDS特任フェロー兼務。専門は技術戦略企画、計測学など。日本の科研費システムが変化する中、あらためてURAが行うべき役割を考えます。

講演者

川谷 健一:長岡技術科学大学・研究戦略本部・リサーチ・アドミニストレーター

大阪大学大学院基礎工学研究科修了。修士（工学）。特許事務所での勤務を経て、 2015年弘前大学のURAに着任し、JSTのCOIプログラムのプロジェクト支援を担当。2019年からは長岡技術科学大学のURAとして、文部科学省の国立大学経営改革促進事業を担当。URAとして大学の変革にどのように貢献していくべきか、皆様と議論させていただきたいと思います。



松浦 知史:東京工業大学・学術国際情報センター・准教授

サイバー攻撃から大学を守るCSIRT（東工大CERT）の統括責任者。啓発活動から施策等の企画立案まで大学全般の情報セキュリティ業務に携わっている。セキュリティを確保しながら組織のパフォーマンス向上を目指し、東工大のDX推進業務にも積極的にコミットしている。

植草 茂樹:植草茂樹 公認会計士事務所・代表

平成10年にセンチュリー監査法人（現EY新日本有限責任監査法人）に入所後、国立大学法人の法人化支援業務を経験後、国公私立大学の会計監査・コンサルティング業務を経験後、独立。現在は内閣府・文部科学省・経産省などの委託業務や委員を歴任。

佐々木 隆太:北海道大学・グローバルファシリティセンター/技術支援・設備共用コアステーション・副センター長

2014年から、金沢大学にてURAとして活動。現在は，北大コアファシリティ構想，創成研究機構GFCのマネジメントに従事し、大学の可能性を最大化する研究基盤マネジメントサイクルの構築を進めている。最近では，技術をベースとし，大学における共有価値の創造(教育と社会的価値創出の両立）を目指した北大テックガレージを展開し，技術と社会の関係性、深化のあり方を研究対象として活動している。

江端 新吾:東京工業大学・戦略的経営オフィス/オープンファシリティセンター・総括理事・副学長 特別補佐・教授/センター長補佐

2009年北海道大学にて博士(理学)を取得。大阪大学、北海道大学にて宇宙 科学研究・分析機器開発に従事。北海道大学URAステーション副ステーショ ン長、同大クローハルファシリティセンター副センター長等を歴任し、2019年 より東京工業大学に着任。現在内閣府上席科学技術政策フェロー、文部科 学省科学技術・学術審議会研究開発基盤部会委員、研究・イノベーション学会研究基盤イノヘーション分科会（IRIS）等を通し研究基盤政策の専門家として活動。